

## これからの部活動を考える地域クラブ活動シンポジウム 後半

### 【パネルディスカッション】

では、ここからパネルディスカッションを行います。テーマは新しい部活動の形についてです。ステージ上のパネリストから地域クラブ活動の充実について、様々な視点でご意見をいただきます。それでは、本日のパネルディスカッションのコーディネーターとパネリストをご紹介します。

ステージ向かって左側から本日のコーディネーターを務めていただく文教大学人間学部人間科学科教授の二宮雅也様でございます。続いて、パネリストの皆様をご紹介します。こちらからステージ向かって左側からスポーツ庁地域クラブ活動アドバイザー・新潟県長岡市教育委員会学校教育課部活動地域移行室課長・石川智雄様でございます。お隣真ん中のテーブル左側より一般社団法人未来地図代表理事・前長野県飯田市教育長・代田昭久様でございます。お隣埼玉県蕨市教育委員会・内田敦子様でございます。お隣スポーツデータバンク株式会社代表取締役・石塚大輔様でございます。最後お隣、長野県飯山市立城南中学校教諭及びみゆき野軟式野球クラブ監督・安川輝壘様でございます。

全5名のパネリストをお迎えし、新しい部活動の形や地域クラブ活動をテーマにディスカッションをお願いします。

それでは二宮コーディネーターよろしく願いいたします。

(二宮さん)

皆さん、本日はよろしく願いいたします。

それでは最初に、私の方から今日のパネルディスカッションのメインテーマになります、その考え方についてちょっとお話させていただければと思っております。スライドに映ってるかと思えますけども、まずこの問題を考えていくときに、いくつかの視点があるかなっていうふうに考えておまして、その1つが、皆さんから見て正面向かって上の方にありますけども、生徒っていうふうに書いてありますが、子供たちのことをまず考えて欲しいなっていうポイントが1つあります。それはなぜかと言いますと、この部活動の地域移行という言葉が、今日、使ってますけど、一体埼玉県の中学生のどのぐらいの子たちがどの程度理解しているだろうかというところが一番心配なんですよね。言葉だけが独り歩きして、中身がなかなか理解されていない。

ここをしっかりと理解してもらうことに今回つなげたいなと思っております。そして、チームスポーツ或いは吹奏楽など、たくさんの人数が必要なスポーツや文化活動ありますけども、そうした活動が少子化の中でなかなか維持できなくなっている。どうやったら維持できるんだろう、こういうことも今日関係してくるかなというふうに思っております。

そして、一部の人だけが満足する環境の是正、これは今、埼玉ってものすごい人口が多い地域があって、はっきり言って部活動って変えなくてもずっと維持できるじゃないですかという考え方もあると思うんです。そういう人が一部の人で、今大丈夫だからいいじゃんっていう人だけの問題ではなくて、地域全体の問題として考えていこうということですね、これがもう1つ

の問題としてあります。

そして、様々な活動内容を提供していく、埼玉県には不登校の子たち非常に増えています。学校だけが居場所ではなくなっている。そして、障害のある子供たち、外国から入ってきた子供たちが増えています。いろんな人たちが地域の中で活動することによって初めて共生ができる、そういったことも今回大きなテーマになるのではないかと。そういう生徒の目線に立って考えていただきたいのが1つです。

そして、学校の先生から部活動が奪われていくような、そんな錯覚を起こすディスカッションになっていること自体が本当は良くないんですけども、そうじゃなくて、学校の先生たち自身が、自分が指導したい種目や、或いは自分が活動したい内容を先生自身が選択できないというミスマッチをたくさん起こしてありますよね。全くやったことない部活の顧問をやらされたりとか、全くやったことない文化活動をやったりとかっていう先生もいらっしゃると思います。そうじゃなくて、先生たちがやりたいなって思う環境を創出してあげることが重要です。

また、やりたいなとは言っても、先生たちもご結婚されたりご出産、お子様が誕生したりとか、或いは歳を重ねていたりとか、病気をなさったりとか、途中でけがをしたりとか、心が折れたりとか、いろんなライフスタイルの変化に対応していかなければなりません。学校の先生だけにすべて押し付けるのではなくて、どうやったらそれが持続可能な形で維持できるのかってことも考える。

そして、それに関わるものとして兼業兼職っていうものが、どんなふうに運用されていくのか、これも考えていきたいなと思います。そして指導者の方々、今回の地域移行は地域の指導者が必要であります。その指導者をどういうふうに発掘しているのか、或いは育成するのかっていうのもテーマになるでしょう。そして指導者だけではありません。地域のボランティア的な関わりの方、例えば見守りで関わっていただくとか、いろんなお世話をしていただいたりとか、その専門的指導じゃなくても携わっていただく方がたくさん必要です。そして、大会が地域に開かれるようになればその地域の大会の運営者も必要であるでしょう。そういった指導者やボランティアを発掘する視点、そして最後に、保護者の方々にこの地域移行の余波をちゃんと理解してもらわないと何か間違った状態で伝わっていくという非常に怖いことになってしまう。内容理解の促進、そして活動に協力してもらうことが重要です。

そして、ときにはですね、お金を出していかなきゃいけない。お金を出していただくことも理解が必要です。今なぜお金を出さなくてよかったのかっていうことをちゃんと考えて欲しい。

誰がその労働を担っていたのか、こういった問題を少し明るみに出しながら、どうやったらみんな、みんなが関われる楽しいこの地域クラブ活動ができるのかっていうことを今日はここにお集まりになったいろんな方からヒントを得て、最後持ち帰っていただければなというふうに思っています。それでは、蕨市の内田様の方から蕨市の様々な取り組みについてご紹介いただければと思いますので内田さんよろしくお願ひします。

(内田さん)

蕨市教育委員会の内田でございます。よろしくお願ひいたします。

スライドでは、私の方からは令和4年度から本市で取り組んできたことを簡単にお話しさせてい

ただいて、そのあと直近感じている課題について少しお話させていただければと思っております。簡単に蕨市について説明をしますが、蕨市は日本で最も面積の狭い市で、ただ人口密度が一番の町でございます。小学校が7校、中学校が3校です。各校の距離が近いので、徒歩とか自転車で簡単に移動できるっていうメリットがございます。

まず、令和4年度にやったことの一部として部活動の地域移行に向けて教員・生徒・保護者のアンケート調査を行いました。まず先生方のアンケート調査の中で出てきたのが休日も指導したいという先生が3割弱です。指導は考えていないとか、やってもいいけどやらなくてもいいならいいかなとか、そういった意見がありました。あと、記述式でいろいろ部活動の地域移行について考えるところをご意見もらったんですけど、なかなか辛辣な意見がありまして、部活動は絶対先生がやるものだとか、逆に早くやってくれるならやって欲しいなということもあって、もう様々な意見をいただいております。続いて、生徒へのアンケート調査ですが、部活に満足している、どちらかといえば満足しているが、87%と結構高い割合でした。これを踏まえると、早急に全部を地域クラブ化するのは難しいだろうと。現状満足しているところがあるので、必要などころから少しずつ取り組んでいこうというふうに考えました。このあたりはやはり課題があったので、困っている種目、部活に対して、地域クラブ化をしていこうというふうに進めてきました。

続いて令和5年度ですが、スポーツ庁委託の実証事業に参加をして、本市では2校3部活でまず取り組みを進めました。陸上・剣道・柔道の3種目です。こちらの事業は、本市では業務委託をしておりまして、スポーツデータバンク株式会社さんに入らせていただいて、実際には指導者の派遣であったりだとか、活動計画と指導者の人とのやりとり、この辺りを担っていただいております。各クラブなんですけれども、指導者は剣道・柔道は市内の連盟から派遣をしていただいております。ここは、以前から外部指導者というか実際に部活動の指導の連携があったので、その連盟から快く派遣をしていただいたというところなんです。陸上についてはなかなか専門の方がいないので、スポーツデータバンクさんからの派遣と顧問の先生が休日の指導したいということで、兼職兼業で1名担当していただいております。令和5年度の成果なんですけれども、実証時、地域クラブ活動に参加した生徒保護者にアンケートを行いました。新クラブ活動に満足どちらかといえば満足が生徒保護者ともに9割を超えております。この地域クラブでよかったことなんですけれども、内訳としては専門的な指導を受けられたっていうことが一番多く挙げられました。生徒なんですけれども、専門的な指導を受けられた後、体力が身についた、このあたりが多い回答になっております。続いて保護者の方なんですけど、圧倒的に専門的な指導を受けられたということで、やはり専門的な連盟の方だったり、これまで長く競技に親しんできた方が指導者として入ってくれたので、そのあたりの満足度は非常に高いふうに考えております。本市では今年度も実証事業の方に参加をしております。多くの自治体は、実証事業単年度終わると1回間が空いてしまうこともあるんですが、本市は令和5年度からずっと継続して、今年度も4月から、地域クラブ活動として実施をしております。その上で、今年度はまず1つ目がこれまでは単校の部活動を取り出して地域クラブにしていたんですが、市内3校ということもあるので、募集を3校に広げております。それから児童生徒対象のアンケート調査というのを今現在取っているところで、今後新規に立ち上げるとか、地域クラブ化したほうがいい種目は何かということ調査をしております。そして3つ目が市内の小学生を対象に活動している団体さん

と連携して体験イベントやってみようと、これはもう部活動にない種目なので、実際にやってみて反応がよかったら地域クラブ化しようかなというところで今企画をしているところです。

ここからなんですが、現在の課題についてお話をさせていただきます。課題はいっぱいあるんですけど、今直面している問題・困り事です。まず1点目、今業務委託でスポーツデータバンクさんに入っていてはいるんですが、やはり今後長くこれ続けていくとなったときに、もともと地域で活動している団体さんがいろんな種目で活動しているんですけども、そういった団体さんが地域クラブになって、運営をしてもらおうと、持続可能なのかなというふうに思います。今年度も1件依頼をしたんですけども、実際に話をしてみると、小学生対象には今までやってきたけれども、やっぱりいきなり中学生を受け入れるにはちょっと体制が整わないかなというところで、まだ様子を見させて欲しいというふうに言われています。実際に色々な種目をこれから増やしていきたいので、そういった既存の団体さんにお声掛けしながら、運営団体としてのノウハウをスポーツデータバンクさんにも入っていて、ゆくゆくは自走できるような形がいいのかなと思っております。それから2つ目、今ある地域クラブの種目でまだ部活動として他の学校に残っているところもあって、市としては一個にしてしまった方がいいかなというふうに思っているんですが、そうすると、例えば今まで2校の部活動で大会に参加できました。そうすると個人で出られる種目はいいんですが、団体種目になると、大会に出られる子が減るよねというような意見があって、1つにした方がいいのかなと思ってたんですけども、制度とか保護者からするとそういう枠が減ってしまうっていうところは懸念をしているので、もし一本化するんだったら事前に周知をして、大会の切れ目のいいところでスタートするっていうこと。あと、1つにしたときに何か困り事としては、誰を指導者にするかっていうところですね。いろんな団体があっていろんな指導者がいろんな考え方があるので、蕨市の地域クラブとしては、この方を指導者にしますっていう選び方がすごく難しいと思っています。最後3つ目なんですけれども、各校で今部活動の適正化ということで、やはり教員は生徒数に対して部活動数が多いので減らしたいんですが、今合同部活動拠点校部活動ということで、大会参加できるような仕組みを整えていただいているんですけども、やはりなかなか減らし切れないというか、顧問の先生の負担が増えてしまうようなところがあって、制度はあるけれどもちょっと運用が難しいかなという問題もあります。これが直近困っていることです。

最後、個人的な意見になりますが、まず1個目、私が感じているのは、学習指導要領の記載がどうなるのかということです。現状やっぱり部活動の記載があって、何かそれによってちょっとねじれ現象というか、部活動やめて地域にのびしろっていうところなんですけど、どうもやはり皆さん部活動像が大きすぎてそこを変えられないっていうのが感じているところです。それから、大会について全国大会を継続しますという種目と、何年度からやりませんっていう種目が報道にも出てたんですが、このあたりもこのねじれの原因ではないかなと感じております。最後3つ目、私自身中学校で保健体育を教えましたし、自分自身もバスケットでずっとやってきたので、やりたい気持ちとってもわかります。部活動でやっぱり自分自身、いろんな方にお世話になって、自分自身の成長にも繋がってきました。そういった場所をなくしたいのではなくて、むしろやりたい子たちやりたい先生たちそういった方たちがやれる環境を残したい。なので、いろんな課題もあるんですけども、そういった人たちのためにもできることをなんか一人一人がやれるように広げていきたいなというふうに思っております。

蕨市は以上になります。

(二宮さん)

はい、ありがとうございました。

非常に蕨市の現状というものがどのようになっているのか、また問題点がどこにあるのかということが非常に明確にわかりましたし、またこれはおそらく他市にとっても同じようなことが起こっているとたくさんあるんじゃないかなと思いましたので、これをどう考えていくのかっていうことは今後重要なことというふうに思いました。

ちょっとここではまだいじりませんが、この後いろんな発表を受けて、この問題についてお話していきたいと思います。

それでは続きまして、スポーツデータバンク石塚様お願いいたします。

(石塚さん)

ただいまご紹介いただきましたスポーツデータバンクの石塚でございます。よろしく申し上げます。僕のスライドはもし気になる方は写真を撮っていただいて全然大丈夫ですので、あと今日 10 分しか持ち時間がありませんので、本当に話せることは限界がありますので、またオンラインの見ている方を含めて、また何かあれば、問い合わせいただくか後程ご覧いただければと思います。早速、僕の方から少し簡単に自己紹介させていただければと思います。スポーツ庁のいくつかの検討会議の委員をやっております。令和 3 年度 9 月の検討会議の地域移行ですとか、先月から始まった地域スポーツクラブのワーキンググループの委員を務めております。

その他一番下段にあってちょっと後ろの方は見づらいかもしれませんが、沖縄県、北海道、山形県、徳島県、これは都道府県単位の県のアドバイザーですとか総括するコーディネーターを務めさせていただいております。民間としては、この部活の地域移行の行政向けの制度設計の支援業務というものを、いま全国で 40 ぐらいの自治体さんと取り組ませていただいているという、そんな背景でございます。その中からいくつか事例を含めて地域移行の課題などを抑えられればと思います。

地域移行にはザックリ分けて課題が 3 つあると私思っています。

1 つ目、人材。人材においても誰が指導するんだってという人材の募集のそこだけではなくて、その人材の要件、設定とか、あとは今後持続可能な体制を作っていくためには評価みたいなものもしていく必要がある。

2 つ目、右上の財源です。これも今はスポ庁の予算がありますけれども、今後自走とか自立化という言葉も出てくるかもしれませんので、一部財政の負担がどういうふうになってくるんだろうかっていうのも 1 つ考えなきゃいけない。

意外とこの地域移行で漏れていることは、管理体制の構築、管理という部分になります。管理は大きく分けて 3 つあります。生徒さんの情報を管理するような指導者を管理すること、クラブの運営に必要な管理システム、個人情報の管理とか名簿とか、指導者等のスケジュール調整とか、謝金の支払い、もしくはそこに関する税金の精算とかその辺もろもろクラブを運営することで考えると、今まで発生しなかったこれの仕組みが必要ですね。

2 つ目は安全管理の指導者の研修ですとか、あとはスポーツ安全保険に必ず入ると思いますが、

それに足りない部分がもしあるのであれば、指導者の方の安心安全のためにもう少しオプションでいろんな被害に対する事項とか賠償に対する事項を手厚くするっていう考え方もあるのかなと思っております。

そして3つ目のちょっと見づらいですが、施設管理と書いてあります。学校の先生方が体育館の開け閉めとか、この部活動がどこでいつ練習するという調整も全部やっていただいていると思うので、もうこれクラブとして運営していくっていう意味合いでは、移行期間も含めていろんな方が使用していくと、学校施設の活用っていうところで、施設の予約とか調整とか、あとは鍵の問題というところも出てくるかなと思って後程自治体の事例でお話します。

あと、よく自治体の皆さんに必ず聞かれるのは地域移行どうやってやったらいいですかっていう質問です。1つ目、意外とこれやってるようで分析がちょっと足りない実態調査です。先生方、生徒、保護者ありますけれども、指導団体の皆さんに対してのアンケートはどのような種目、どのような種目レベル、どのような場所でどのような環境を整えば指導はできますか、などですね。今後地域移行に必要な指導者の皆さんのデータベースになるところが必要かなとか思っております。さらには、意外と今の環境を考えると人口減少が進んでいる地域と市街地では意外と進んでいない地域があるので、なかなかこれ今やらなくてもいいんじゃないのっていう議論もあるんですけど、しっかりと自治体のデータベースを見ると、0歳から4歳ぐらいの年齢の各項目ごとの区分みたいなのも出ていますので、10年後の生徒さんの推移とか予測をどうするかということを考えてやっていくのは必要だなと思っております。そのあたりの予測も分析に必要ななと思っております。

2つ目、実証ですが、実証をやっていきますけれども、その上でも指導者の要件の設定がここに書いてありますし、地域クラブの活動場所の調整やルールがあるんじゃないかなと思います。この辺がおそらく制度設計として一番重要なところで、いわゆる指導者が集まっているからといっても手をやいてしまうということです。

3つ目が施設の管理とか財源とか、推進計画とか地域住民への周知みたいなところも課題が残るかなと、地域移行の整備には課題があるのかなって思います。私がアドバイザーをやっているのは、沖縄県の例で、沖縄県は今年度、国が指定する7つの地域に1つ選ばれています。重点地域としても選ばれていて、新潟も選ばれています。石川県も選ばれています。沖縄県がまず1つです。具体的に10の政策課題を国がかかげ、詳しくはスポーツ庁のホームページをご覧ください。

その沖縄県の1つの事例にある沖縄県のうるま市っていうところなんですけれども。うるま市は、こんな取り組みやっています。地域連携という言葉をご存知ですか。学校管理下ですけども、指導者を雇って学校管理で行うということを2017年からやっています。今もやっていますけども23年度までやっています。昨年度はその地域連携を学校管理下でやるものが15、地域に移行した地域クラブが12ということでやりました。これが今現状の地域クラブというものを今年度25年度まで増やしていこうという動きになっています。これをやっていくために財源の確保と運営する管理の部分や制度設計も大事だよっていうことで、うるま市は特に施設の管理だとか、こんなものを今テストケースでやっています。クラウドカメラで体育館に防犯カメラをつけています。ドライブレコーダーみたいなものなんですけど、備品の損失、施設の破損、このあたりどうするの。どの保険で使うの、誰が保障するのか議論が必ずある。事故

やけがの危険性も高まるケースも考え、遡って記録を見ることができます。鍵の問題なんですけど、鍵の受け渡し問題っていうのも皆さんあったり、地域でもそもそもあまりよくありませんが、鍵をコピーして渡してしまっていることが、これスマートロックでスマートフォンで開け閉めできる仕組みを使っています。実際に鍵穴をいじることなくかぶせるような機器がありまして、それらの登録してるスマホに違う暗証番号がとぶと、そうするとこの管理システムの中で誰がいつどこで開けたか閉めたかという記録が残ります。ただこの仕様のために作られたものではないので、例えば体育館とのセキュリティーとの連動がもちろんまだですし、電気の消し忘れとか、窓の閉め忘れとかのリンクがまだされていないので、あくまでもドアの開け閉めというところなんですけど、こういうところのいわゆる学校側の負担っていうものの1つにあげられる鍵の問題とか施設の管理の問題っていうものも着手をしています。

次がお金の話です。いくつか財源確保の方法をとっていますが、基金化です。これは地元の商工会とか、観光協会とか少額でもいいので何かしら寄付や支援いただけないかと考えています。2つ目が企業の協賛です。実際やっぱり協賛寄付ではなくて、企業さんの協賛でしっかりと地域移行する上での課題とかそういうものを、ソリューションとして提供できる企業さんとちゃんとパートナーシップを組むことは大事ななって思っておりますので、企業からの貢献で人を派遣するとか、お金を出すだけじゃなくて、先ほどの例えば施設を管理するとか、安全面をより担保する研修面を何か考えると様々な手法で企業の使い方があるのかなと思っています。

次ですね企業版ふるさと納税です。これ企業がその地域、所在する地域以外に希望すると、条件によりますが最大9割減税の仕組みや、協賛というものの、寄付というものがこういう制度にのっとってやることで、財源の確保にもなる。令和3年度の実績によるとおよそ約1500万ぐらいの歳入がありましたので、こういったものも地域クラブの原資として活用していくことが重要だと思います。また、チャリティー基金ですけども少し規模がちっちゃくなりますが、いろんな地域の活動はあります。これ写真は太鼓なんですけども、中学生年代の子たちの太鼓クラブみたいなことをやったりする。いわゆるそういうクラブの成果が発表の場っていうのがなかなかなかったんですけど、こういったものをやりながら入場料をしっかりと取って、実行委員会を作って一部経費を地域クラブの財源にするみたいなことも考えられるのかなと思っています。

以上私からの情報でございます。

(二宮さん)

はい石塚さんありがとうございました。

国内の教育に沿ってですね、特に今回、うるま市の事例を出しながら、おそらく地域移行が進んだ先の形も含めてどういうふうにそれを維持していくのかっていうことも含めてお話いただいたと思います。続きまして長岡の事例に入っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

(石川さん)

よろしくお願ひします。私は地域コーディネーターじゃなくてアドバイザーですね、アドバイザーと言っても国のことがわかるわけじゃなくて全国各地に、あなたの市のところのやっことを紹介してねっていうレベルのアドバイスしかできておりませんので今日はうちの市で考えたっていうことを1つの事例として発表させていただきます。

右下に変えるべきもの変えざるを得ないもの変えてはならないもの、これ1つのキーワードにしてるんですけども、今日皆さんお集まりの方々もきっとこの部活動の地域移行っていろんな思いを持たれてると思います。昨年私も1年間で10の都道府県を回らしてもらったんですけど、どこ行ってもみんなそれぞれですし、それぞれ自分の経験もあるし、思いもあるし、保護者の願い子供の様子も違ってる。そしてなおかつ、これってすべて県じゃなくて自治体が制度設計するので、その自治体は持っている財産とか財政含めてできることってのはどうしても限られてきて、そこにそれぞれの独自性を出せるチャンスでもあるんだけどできないこともあるというふうなことはあるんじゃないかなと思います。

自己紹介書いてありますけども、もともと中学校の部活をやりたくて体育の教員になりました。日本中体連でも競技部長でいわゆる全中大会を何年間か仕切らせてもらった後、教頭1年でちょっと向いてないかなと思って辞めて、市のスポーツ振興課で、ジュニアスポーツ環境を変えるという仕事をやらないかって言われて、完全に辞めて入ったところ、いつの間にか部活動地域移行が始まったので、ちょうど学校現場にもいるし、行政の立場もあるし、さらに野球の方で県の野球連盟の理事長をさせてもらって、競技団体も彼らにちょうどいいからやれよって言われて今こういう仕事をやらせてもらっています。今回の資料にはないんですけど、やっぱり私部活動地域移行室っていうとこなんですけども、うちの市今常時6人いるんですけども、みんながみんな部活動が一番いいに決まってるって思っています。正直言って、けど変えなきゃいけない理由もやっぱりあるんだっていうところで、みんなそうじゃないと思いながら変えるために一生懸命やってるっていう。その理由として、教員の志望者が全国的にどんどん減っている上位3つの理由に部活動が入ってきていて、そしてうちなんかもそうですけども、教員の志望定数に満たない教科も出てきたり、このまま進んだら義務教育崩壊するんじゃないかっていう心配の声もあるってことで、やっぱりやらなきゃいけないんだなと思ってやっています。私どもの市って、ご存じの方もいるかもしれませんが、中学校が27校あるんですね、面積でっかいんですけども人口密度は蕨市と違って低いんです。どうやって地域移行するかってものすごく大変な課題です。埼玉の東側・西側ですが、南北で人口密度が全然違う話を聞いたんですけども、やっぱり私共もそうで、この辺は結構多いんですよ。ただ周りはそれをまとめて地域移行っていうものすごく大変な課題になってます。

今日お話しするのが、6つのポイントになるんですけど、時間の関係上、市のホームページに詳しく出ておりますので、後程見ていただければと思います。今回私共がやらなくてはいけないなと思った理由は、自分が行ってる学校で10個の部活とかスポーツ選べる学校が2校あるんですね。一方で、男子は1個しかやれないっていう学校3校もあるんですね、同じ中学校なのに学校規模でやる種目が制限される。これって本当にいいのか、やっぱり今回何とかしたいなと思う大きな願いがあったところでもあります。

次2つ目、いつからやるか。県の教育委員会と、県の校長会、県のスポーツ協会、スポーツ振興課が同意した上でっていう文書を令和5年の3月に出して、すべての市町村が令和7年末までに部活はしないっていう通知を出したんですね。そうなるやらざるを得ない。うちの市は実は来年の9月に一斉移行します。文化部も含めて、どっかに半分じゃなくてすべて地域クラブをゼロから、種目別にエリアを作ります。そうすることで初めて全市の子供が行けるっていうふうなことで、そういうふうになりました。これは何で年度途中かっていうと、4月にやると3年最後



の大会の直前に体制が変わるのはちょっとかわいそうだし、この年は前半部活動をやってるし、後半であればうまくいけば教師と指導者間の引き継ぎもできるしっていうことで、こんなふうになりました。

3つ目、全体構造として3つの種類にわけて考えています。地域クラブはいわゆる学校部活動に近い活動となります。ただ国も言ってるんですけども、地域クラブの中で、いわゆる評価もやってくださいや楽しみながら普及的なことをやってくださいって。これなかなか無理があるので、うちは上を目指したい人はこっちでやってくださいっていえるようにしないと勝ちたい勝たせたい親御さんとか、勝つことでそれを正当化しようとするってものが地域クラブに入り込んでしまうとどうしてもうまく運営できないから、やりたい人はスポーツ協会や文化団体のトップのチームに行くようにしました。あとは趣味程度でやりたい子供たちのことは、休日の部活動が次の学習指導要領でどうなるかはっきりしたころから決めていこうと。平日の部活動は学習指導要領に載っている限りやります。その方が子供たち希望した活動ができるので、こうしています。

あともう1つ、全市一斉で文化もスポーツも含めた運営団体をスポーツ協会にお願いしました。こうすることで、どの種目を選んでも参加費一緒になる。さらに、指導者の報酬も生徒の参加人数にとらわれず、同じお金が払われると考えています。そのために4者協定を結びました。市と教育委員会とスポーツ協会と文化振興財団です。なぜこれ結んだかっていうとスポーツ協会が定款上、文化クラブの子供の指導をするには、実は定款違反になっちゃうので、そのために協定結べば文化クラブの子のいわゆるお金を集めるとか、謝金を払うとか保険の加入も一括でやるという負担をなくそうということで結びました。

そして、地域クラブは誰が作るのってこともあるんですけど、最終的に市がいつまでも作ってお金出し続けるわけにはいかない。自走するクラブを作んなきゃいけないんですが、初年度はスポーツ協会が運営する教室としてスタートするんですけども、1年かけてこれを任意団体になってもらって、指導者の契約はクラブでやってもらう形を目指しています。

部活動の体制って今基本的に入部するとイコール休日もセットになってますよね。これ当たり前だと思うんですけども、今回の地域クラブでは学校活動平日入ろうが入るまいが休日は全く違う活動にも行けるし、土日のどっちか片方自分のクラブでもう1個は別のもに出てもいい、ただしうちは大会は全部地域クラブで出ますというふうにも選択できます。あとは部活動に入らなくても、土日だけやりたいっていうのもできますよというふうな選択肢が増えていきます。

どうしても日本人て真面目なんで、スポーツの指導でもそうなんですけど、真面目だから欠点ばかり見て欠点を何とかしてやろうとする。この部活動地域移行に関しても、欠点とか不安ばかり出てきちゃうんだけども、何かいいこともあるんじゃないのかっていうところもやっぱり見ていかなきゃいけない。この辺もみんなに理解してもらわないと、子供からして見るというんなニーズに応えることができるんですよってことも1つのポイントかなと思います。うちは大会は全部地域クラブで出ますというふうに生徒にも保護者にも言っています。ある部活は人数が足りているから、部活動で出ますなんて言われてしまうと、人数が足りなくて大会に出られないところや部活動とクラブ活動で指導者が一緒の場合、片方監督いないし作戦筒抜けみたいな状況になってしまうという課題があるので、うちはもう全部地域クラブ活動から出しますと宣言させていただきました。

あと、指導者データバンクということで、指導者の募集もやっています。保護者の要望だと、やっぱりお金払うんだから、専門家に教えて欲しいっていうニーズあるんですけど、専門家のいない活動もあります。専門家じゃなきゃ駄目だと言われてると、活動の場がなくなってしまうから、学校の部活動って本来そういう目的じゃないんですよと。活動の場、クラブを多く作ることを最優先します、理解してくださいとお願いしているところです。何を優先すべきかって、やはり子供が一番みんなで活動したいっていう場を作ることだというふうに考えてます。ここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

(二宮さん)

ありがとうございました。

なお、特徴的な取り組みっていうのが非常によくわかったかなというふうに思います。

3人ともいろいろなお話をさせていただきましたけども、ちょっとお話を深めていきたいなというふうに思います。

まずお聞きしたいのは今石川さんの話の中で、文化部活動の話出てきましたけれども、蕨は先ほどスポーツの話ありましたが、この例えば吹奏楽をはじめとするいろいろな問題あると思うんですよ。その辺ちょっと状況というか現状をお願いします。

(内田さん)

はい、ありがとうございます。

本市は文化部で休日に活動しているのが2つでして、吹奏楽と音楽部というか、合唱部なんですね。合唱部の方は移行できるかなという気もするんですが、やっぱり吹奏楽だと楽器をどこに置くかとか活動の場所の問題があって、正直進んでいないところです。ただ蕨市は結構音楽関係の団体がすごく多くて、そのあたりの地域連携は図れるんじゃないかなと思うので、今後運動部が進んだ際には、文化部も進めていきたいと思います。

(二宮さん)

でも蕨って先ほどの話でいくと、どの中学校に所属してもみんな自転車の距離で最低いけるっていう話あったじゃないですか。だから、拠点は実は他の市よりも作りやすいのかなって気もするんですけど、どうですか。

(内田さん)

面積が狭くて、場所がないかなって感じです。

(二宮さん)

でも、またその辺もまたヒントを与えてくれる方がいらっしゃるかもしれませんので、お願いしたいと思います。

また、石塚さんのお話の中で、ステップ2の受け皿っていうことで、受け皿を探すのが結構大変だと思うんですね。その受け皿探しの何かヒントとかノウハウとかっていうこれまでの経験

の中からちょっと埼玉に参考になるところがあれば教えていただきたいと。

(石塚さん)

ありがとうございます。

多分受け皿って一言で言ったときに、何やるのってのが明確になってないんじゃないかなってすごく感じるんですよ。さっきの長岡市の石川さんの話の通り、事務はここがやるよ、なのでここだけをやりたいという、わかり易く要件を設定するってことはまず大事かなと思うんですよ。まず指導できますかできませんか？できる！ってことはよくあるんですけど、実はこういう業務があつてこういう管理もしてほしくて、、、となると、ちょっとそこまでの責任は重いなんてなっちゃうと思うんで、実証やっていると、そういうふうにするんだなあとお客さん見えてくると思うんで、実はこの中身はねっていうことを次のステップとしてやっているとできるんじゃないかなと思います。そして、ちゃんと分担して役割を明確にして、どの部分を誰がやるんですかっていうところもやっぱり必要なってのまず1点ですね。

あとは指導者を集めるっていう意味で、どのレベルの水準の指導者を求めているかという要件の設定が大事かなと。レクリエーション的なスポーツを求めているのだったら、別にそこまで専門的じゃなくてもいいねっていうのもあると思いますし、いろんな募集方法を考えていくと、指導者の皆さんも底上げして、育成して、発掘していく、そうすると何か地域全体のスポーツ環境がより良くなっていくっていう考え方もあると、まちづくりの一環になるんじゃないかなと。

(二宮さん)

なるほど。要するに、すごく専門性が高くて資格を持ってる人しか昨今なんか指導者になれないようなイメージがしてしまうと、当然集まりようはないんだけど、もう少し平たいところから集めていくことも可能だし、それを育成していくような組織を作っていくってことですね。

(石塚さん)

そうですね。やっぱり何が大事っていうわけじゃないですが、これも順番は大事だと思うんで、そこを明確にちゃんとする、何を求めているんだって明確にするってのは大事じゃないかなと思います。

(二宮さん)

なるほど。内田さんその辺先ほどご自身のお悩みの中で、受け皿というのがありましたけれども、今のアドバイスを聞いて何かこう、参考になりましたか？

(内田さん)

そうですね。すごいざっくりした話ですけど、いろんな方に話を聞いて、何ができますかっていうところを聞いていくことかなと思います。全部をやると言うのと、いやちょっとってなっちゃうと思うので、ここはできますかとか、何ができますかみたいなことでご相談していくの

がいいと思いました。

(二宮さん)

なるほど。その人がここまでだったら請負ってもいいよってところを見つけながら、じゃあ足りない部分をどうやって足し算していくかみたいな探したということですね。

確かにそうやって進んでいくと、何か大きな受け皿が見つかってくるような感じしますね。

(石塚さん)

そういうところもさっき言ったステップの最初の実態調査で、深掘りしていくといいんじゃないかな。どのレベルだったらできますって分かれば、その地域全体の指導者のイメージとしてどのレベル感が見えてくると思うんで、またそういうところはやりながらですかね。

(二宮さん)

最初のステップ実態調査の中で、既存の団体に調査するときに、そのレベル感とか関わり方まで聞いておくってことですね。ありがとうございます。

石川さんすごく長岡の素晴らしい先進事例をお話していただいて、私が一番衝撃を受けたのは、そのまず大会に出場できるのは、地域のクラブオンリー、でもその運営をするのは今のままでいくと、何となく中体連っていうことで先生なのかなって気もするんですけども、その一方で地域クラブで運営者は先生ってところが一番紛糾するところなので、その辺のからくりとかどういうふうにやってるのかを聞いてみたいと思うんですが。

(石川さん)

はい。中体連とお話してるんですけど、中体連の主催大会は、中学校の教員に対して派遣申請を出して大会運営をしてくださいと、その他競技団体の主催する大会は顧問じゃなくて、地域クラブの指導者を役員として運営をしてくださいというふうにしないとだよと話しています。

(二宮さん)

そうすると、その地域クラブの役員さんになってる人は、中学校の先生のように例えば大会期間中も関わるのが可能な方が役員になっているっていうようなイメージでよろしいでしょうか。例えば、いちサラリーマンとかがついてるとちょっと難しいのかなって気もするんですけど。

(石川さん)

基本的に競技団体主体の大会っていうのが土日になるので、副業を認めていない企業があるので、その辺は商工会議所とかいろんところを回って、ご理解をいただけるよう努めています。

(二宮さん)

そういう裏の調整っていうのは必要になってくるってことですね。ありがとうございます。

この辺はすごく参考になったなと感じましたけど、まだ発表してない安川さん、唯一中学校の

先生で今回参加してますが、今の長岡市の状況を聞いて、率直に中学校の先生の視点からいかがですか。

(安川さん)

はい。中体連の運営の話があったんですけど、僕自身運営の方に関わらせていただいている、ある競技だともう新人戦が始まるんですけど、全部クラブチームだと。でも運営が部活の先生だと。自分のチームがないのに運営をやるというお話があって、やっぱりどうしてもそれはクラブの人から1名ずつ運営に携わってもらわないと無理だと。でもその運営の人が一般の方で、仕事を年休取られて、お金も出ない中で運営1日やっていただくってところの難しさもあって、本当にいろんな地域の企業だとか、いろんな大人の方たちが理解していただけないと、これは難しいかなって言うふうに思います。

(石川さん)

私どものところの市もやっぱり、中体連として主催するのであれば、主催する側で役員を出すのはこれは、中学校の部活ではなくて中学生を対象とするので、それだったら部活がなくてもやんなきゃいけないというふうなところが判断なんじゃないかなと思います。

(安川さん)

ありがとうございます。本当丁度そのタイミングなんだと思います。だから今県とか地区の委員会のときにどうすんだって話が出てます。

(二宮さん)

そこを進めるためには、まずはその地域の、地域っていうのはその企業体も含めて、様々な主体がそのことを理解して応援してくれないとなかなか実現が難しいということ、従来の一部の人だけがやればいいじゃんっていうことだけでは難しいってことですよ。

(石塚さん)

あと、中体連の大会は色々な市から協賛をいただいている、減免が効いたりだとか、そういった規模の大きい大会ができるのも中体連のよさかなって言うところ、お金をかけないで参加費安くできるところもあるので、どうしても中体連維持したいっていう人たちと、石川さんのお話にあったように中体連じゃなくていいんじゃないかっていうお話と両方出てきています。

(二宮さん)

中体連が持ってたよさをどうやって地域クラブ主体の大会に引き継ぎながら、かつ地域の理解も含めていけるのかっていうことを実現しないとイケないってことが今日わかりました。それではここで5分間の休憩です。

それでは後半を始めます。まず、長野県飯田市事例を含めまして代田さんお願いします。

(代田さん)

今ご紹介をいただきました、前飯田市の教育長を務めておりました代田と申します。

私の方からは少し今までの話と視点を変えて、今私もいろんな自治体のコンサル、アドバイザーになっているのですが、気になるのは目的を見失ってるんじゃないかなっていうふうに、そういう気がしています。部活動の地域移行、この言葉の定義も人それぞれによって違うので、この言葉自体の問題も大きいと思うんですが、部活動の地域移行は、目的それとも手段なのかっていうときに、私はあくまでも手段であって、本当の部活動の地域移行の目的は子供たちを文化芸術・スポーツ活動の主役にして、もっと今よりいい環境に整える。これをみんなの目標にしないと、地域移行の課題解決にあたって、先生たちが余計に負担になっている現状があるんじゃないかと思っています。

今まさに昨年の4月に施行されたこども基本法が制定されました。これはもう子供たちの意見を聞くということが、ある意味法制化された大きなタイミングだなと思っています。私は子供たちの活動をするときに、常に子供たちの意見を尊重する、こういう学校現場、地域でありたいなと思っています。

そんなことをちょっと偉そうに言っていますが、私教育現場じゃなくて、会社は1991年にリクルートに入りました。会社自体は売り上げそんなに売れた営業マンではなかったんですが、アメリカンフットボールをやってみて、日本一を経験させていただくことができ、企業スポーツを一生懸命やってたんですが、その時に目からうろこでした。スポーツってこういうふうに面白いなら、こういうことを子供たちに教えてもらえるといいんじゃないかなって思ったところで、2008年に杉並区立中学校で民間人校長という機会を得て、学校現場に入ることになりました。九州で小学校の校長やったりしましたがけれども、2016年から地元ふるさとの飯田市に戻って、教育長を6年間やりました。長野県の南部の都市ですけれども、大きさとしては10万人規模で東京23区と同じぐらいの面積があるので、移動はすごく大変な地域です。

その中で、子供たちの意見をということで、平成30年度に子供たちの悉皆調査をしました。665時間やってる実態があって、もうちょっと休みたいっていう声がありました。そこで、飯田市として令和元年度、もっとやりたい人はスポーツ競技全市型スポーツスクールを立ち上げて、1ヶ月間だけ放課後の部活動をオフにしました。そしたら、90%の子供たちがよかったと言って、そこから校長会と話し合っ、今飯田市では冬期11月から1月の間をオフにしています。4年間毎年1回悉皆調査をとってどう思ってるのかを調査していますが、半分以上の子供たちがよかったと回答しています。

それで今教育長の立場ではないので、地域の中で、イマチャレ製作委員会っていうのをやって全国のサポートを始めています。昨年アンケート調査をやったときに、私が一番冒頭の課題に挙げたいのは、地域移行知ってるっていう中学生は今3割なんです。子供達不在の中でこれは進んでるんですね。最も進んでる自治体のうちの1つ、令和8年度に完全部活動を廃止するという掛川市は、ホームページや広報を一生懸命やっていって、認知度が高いです。まずはここからなんじゃないかなと思っています。

また、27%がもっと勝利を目指したいという結果でした。これはこれで活動の場をもっと作っていくべきだと思います。その一方で、今の部活動じゃちょっと大変だっていう子供たちを明らかにいて、部活動の地域移行が難しいのは、この二極化したニーズを取り込んでいかなきゃ

いけないという問題です。でも、常にこういう子供たち一人一人を大切にしていくなでということがあったら、当然クラブの階層化っていう発想が出てくるんじゃないかなと思います。今、飯田下伊那地域 14 市町村で、もし休日なかったらどんなスポーツやりたいのかっていう調査をしました。バドミントンとか競技はあるんですけど、ボーリングとか e スポーツというように、もう子供たちの思考って学校の先生方からどんどん遠い所へ発展してるんだなあとと思って、だったら地域移行を機会にこういう子供たちの小さな声も拾っていけるような地域になるねということで、2 ヶ月間エンジョイスクエアということで、今 52 種目約 140 の講座を実施しています。どんなことかっていうともう本当にいろいろです。弓道やサッカー場を使ったり、ビリヤードやボーリング、登山やクワガタ捕まえる、昆虫、料理、e スポーツ、これらを 52 種類、飯田市の子供たちができる環境を整えています。

もちろんいろんな課題がありますけれども、先ほど言ったように何を子供たちがやりたいかっていうのを地域の人たちも一緒に考えてもらっています。繰り返しですが、何が目的かっていうのをエンジョイスクエア始めるときも、地域の皆さんと共有しています。これは、子供たちの今よりもいい文化芸術・スポーツ活動の環境を作るっていうことが目的であって、学校の部活動はもちろん並行してきますよ。でも、今まで学校の部活動に入れていない無所属の生徒や不登校、特別支援学校、希望種目のない生徒、こういう子の環境を作りましょう。でも、もっと豊かにするためには、地域の社会活動の様々なコンテンツを右から左に入れていこうということで、地元の企業や様々な団体の協力を得て、新しい図を描きながら、繰り返しですが、子供たちにとってもいい環境を作るために力を合わせる。まさにこれは、学校教育を中心としたまちづくりをやっていきたいと思いますという形でやっています。

以上です。

(二宮さん)

ありがとうございました。

発表の中身の詳細をお聞きしたいんですけど、様々なプログラムがあって、きっと子供たちも主体的に選択できているんじゃないかなと想像したんですが、この運営っていうのは基本的にどこがどのようにやってるっていう理解すればよろしいでしょうか。

(代田さん)

基本的には、助成金をいただいています。スポーツ安全協会の助成金をいただきながら、スタッフは、私と総合型地域スポーツクラブとかスポーツ協会の 7、8 人でほぼボランティアでやっていますので、持続可能な運営にするために協賛をどうするかとかっていう問題を抱えています。

(二宮さん)

いわゆるそういう運営団体を自分たちで作られたっていうニュアンスよろしいでしょうか。

(代田さん)

そうですね。運営団体と実際の実施団体をどういうふうにしていくか。運営団体の課題、実施団体の課題を明確にしていかなきゃいけないので、そこも課題整理をしてるっていう感じで

す。

(二宮さん)

なるほど。ありがとうございます。

それでは次に、安川先生に飯山市の取り組みについてお話していただきたいと思います。

(安川さん)

ご紹介ありました長野県の新潟県との境なんですけど、飯山市から来ました安川輝壘と申します。よろしく願いいたします。

僕はあくまでも1教員の立場で、この地域移行に関わらせていただいて、どういった手順で進めていったのかっていう事例を紹介できればいいかなと思ってお時間いただいています。

あくまでも前提なんですけど、部活動をなくして新しいクラブを作ったわけではなくて、今ある部活動を発展的にクラブ化していこうっていう立場でクラブ化を進めさせていただきましてので、今日はどうぞよろしく願いいたします。

まず内容なんですけど、地域移行をこういった経緯で進めて、こういったことがメリットであって、こういったことを今頭悩ましてますっていうことがまず1つ目。それと1つは長野県の長野市や千曲市といった他地域の地域移行の取り組みをちょっと紹介できればいいかなと思ってしますので、そのような見通しでよろしく願いします。

まず、地域移行の経緯なんですけれども、今皆さんの中で、保護者から問い合わせが止まらないっていう方いらっしゃるんですか？僕が地域移行を進めたきっかけなんですけれども、まずテレビの報道やなんかで地域移行を進めますっていう報道が先に出ちゃって、現場の僕たち何も知らない。校長先生に相談しても校長先生は分からないっていうし、市の教育委員会もこれから進めるんですっていう話をされて、何をどうすればいいんですかと。ただやっぱり保護者の方は窓口僕たち教員なので、先生に聞くわけですね。どうなるんですか？2年後ですよって言ったときに、じゃちょっとやんなきゃな、そして隣の長野市では先行的に進めますっていう報道もあって、飯山どうなるんですかっていう話もあって、ちょっと不安感先行してるなと感じていたところでした。

そして、学校の先生ですので、異動したタイミングで地域移行すると、今の子供達クラブ化のタイミングだけど、どうなるんだろう。生徒は減ってきてるけれども、本当に安心した活動拠点つくれるのだろうか。今の1年生が3年生になったときにクラブ化をするタイミングじゃあ、今の1年生入ってきたときに説明しないと、3年生になりました、だから月謝が発生します。それだと無責任かなっていうところもあって、(私自身が関わっていた軟式野球部について、)地域移行を進めようと思いました。

まずは、飯山市内2つの学校しかありません。合同チームになりました。このタイミングだったらできるかなっていうことで、いろいろ動いてたんですけど、調整がうまくできなかったんですね、そこでターニングポイントだったんですけども、飯山市内の硬式野球チームの方から地域移行ってどう考えてる？と聞かれ、硬式と一緒にやらないかっていうお話をいただきました。それがスタートのきっかけでした。

この方っていうのが僕の中学校時代の監督さんで、総合的な学習のときに地域学習で繋がりが



あたり、地域の方と繋がりがあったので、移行に進められたっていうのが背景にあります。そこから、市教委に相談をしました。そして硬式チームの後援会や保護者会へお伺い立てました。あと子供たちにもこういうふうに考えてるんだけど、どう？ってヒアリングをさせてもらいました。まず大人たちの承認を経て、子供たちにもヒアリングをしながらそこは進めていったんですね。ヒアリングして出てきたのが、指導者が変わると、環境変わると、練習の雰囲気とか試合の雰囲気とか変わっちゃうのかっていう心配の声。練習場所ってどうなるか、練習時間長くなっちゃうのか、そういった話があったんですね、保護者のお話も同じような話でした。保護者の中であったのは経済的な負担ってどうなのか、時間的に拘束時間が長くなるのか、保護者会のあり方ってどうなるか、そういう話があったんです。そういう話の中で、懸念事項を検討して、令和8年まではお金かけませんと。今の部活動のまま延長できます。そして、指導者が増えることって本当にメリットいっぱいあるんですよっていうことを説明させていただいて、地域移行を進めていきました。これが大事かなと思うんですけど、今の部活動で大事にしていることは、新しいチームになっても変えません。チームで出してる方針はこれに則った指導者が来ていただきます、こういった活動変わりませんってことは重々説明をして理解していただいたところです。

実際それでどういうふうに動いてたかっていうと、まず小学校6年生5年生の保護者と子供たちに理解していただいた方がいいということで、こういったイベントを企画しました体験会っていうことで、それと同時に地域指導者にも呼びかけたんですけども、これも先ほどお話しした僕の監督さんがいろいろ声かけていただいて、集めていただきました。

やっぱりチームが変わって、お金がかかるっていうところは、支援企業を飯山市内で募って、お金出してもらえませんかっていうのをやりました。

実際指導者資格等々も必要なんで取っていったんですが、結果どうなったかというところ1年生21人入ってくれました。そして、地域の指導者も今8名の方がボランティアで来ていただいています。そして、協賛企業からもお金出させていただいて、練習用のTシャツに企業ロゴを入れさせていただいて、こんな企業にスポンサーいただいていますっていうのはやっています。

あとは、市の教育委員会を通して動けたので、市営施設は減免の対象でタダでした。それと、市の校長会で承認いただいて、学校の先生ってクラブ化したら土日の手当でないよっていう動きなんですけど校長先生がいいよと。8年までは部活必要だから部活動の延長として部活動手当出していいよっていうことをやっていただいたんです。

なので、僕たちは保険料を払わなくても市の指導の手当をいただいて、安心して活動することが今できています。ただ、令和8年からは月謝が発生してきますよっていう話をしています。

そして、発足時大変だったんですけど、責任本当に僕でいいんですかってそこが大変だったところでした。

あとは、生徒の不安感。子供たちの中には、本当に先生いなくなっちゃう、どうなるのっていう子供たちがいて、そういったところが大変でした。

そして、メリットなんですけれども、地域指導の方で学童のコーチがそのまま中学校でも関わってくれて、小学校のときからこんなふうに成長したねっていうのをグラウンドで言ってくれるんですね。子供たちすごく嬉しい顔してました。

あと、指導者が増えることで初心者の子にも丁寧に指導に当たることができて競技力向上に繋

がってるなって感じています。あとは、地域の方と関わってるので、まちづくりの1つとして機能してるなと思っています。10年後君たちがこのユニフォームを着て監督をやってくれると嬉しいな、そんなことを子供たちにいうと、学校の先生じゃなくても僕たちの卒業したチームの監督ができるんだ、そういう関わり方もできるんだ、というような表情をしていて、夢があるなと思いました。

今後の課題なんですけれども、やっぱり平日参加の難しさってのはどうしても出てきています。農家の方、飯山市多いんですけれども、土日でも繁忙期忙しいです。どうしても難しいです。あとは、広域地域になりますので、移動手段どうするか。市内の運行バスを出してもらって、平日来てくれるといいなって今相談してるところです。あとは、チーム内の連絡手段や活動備品の管理ってのは出てきてるんですが、あとは指導者の手当、受益者負担って言うんですけど、幾らのお金でやったほうがいいのかって手探りです。高過ぎてもいけないなと思ってますが、安すぎても維持できません。そこを保護者の方に理解していただくっていうのは誰がやるんだろう、いや、僕たちがやんなきゃいけないのかなと思っています。

そして、解決した先に待っているのはきっと僕達教員のやりがいと負担軽減の両立だと思っています。そして、地域で子供を育てることができるといえるのは、価値あることだなと思っています。

最後に僕の個人的な願いです。生徒の成長の場を確保するためには、誰かが動かなきゃいけないんです。選手ファースト子供ファーストは絶対だと思います。部活からの移行なので。そして、指導者の経済的負担が少ないことが持続可能なクラブに必要だと思います。そのために今は大変なんです。思いがある人が動いたときに、バックアップしてくれる周りの環境が一番大事かなと思います。誰かにとって都合のいい環境っていうのは誰かにとって不都合な環境になっちゃいけないと思うんです。みんなにとって都合の良いクラブチームの運営ってのを目指す必要があるかなと思っています。

最後です。行政・学校・民間の連携が必要だと思います。誰かがやるじゃなくてこの3つが連携してやらないとうまく進まないかなって思ってます。

以上です。

(二宮さん)

ありがとうございました。

本当に何か地域の状況が、目に浮かんでくるような感じもしましたし、また皆さん方も想像しやすかったと思うんですけども、1つの中学校の野球部ともう1つの中学校の野球、片方が人がいなくなってきた、チームがつかれなくなったので合同チームっていうタイミングの中で、たまたまその地域にあった硬式の野球クラブが、参加する形で移行の形ができたということでございます。

こういったモデルも全国に出てくるんじゃないかなと思ひまして、ただこれを学校の先生という立場で関わったというところが1つ面白いなというふうに思いました。子供たちへの思いがこういう形にしていたっていうところが非常にいい事例だったんじゃないかなというふうに思いました。

私から質問が1個あって、方針を共有したとか方針を受け継ぐっていうところがありましたよ

ね。この方針を少しわかりやすくお話いただけますか。

(安川さん)

はい、ありがとうございます。方針というのは、あくまで軟式のチームはスポーツレクリエーションの延長でやるよ、土日も片方しかやらないよ。自分の時間を見つけてねって、もっとやりたい子は硬式に移ってねってというようなところですよ。

(二宮さん)

なるほど。先ほど代田さんのお話にも出てきた子供たちの主体性を確保するために様々な選択肢を用意する中でたまたま野球の中に方針として入ったということですね。

ここから、ディスカッションを地域移行の主役である生徒にどう担っていただくのか、そして、どういう環境を作っていくのかっていう話へ展開したいと思うんですけど、ぜひ代田さんに感じたこと等を追加していただきたいんですけどよろしいでしょうか。

(代田さん)

ありがとうございます。

先ほど言いましたように私突然 43 歳のときに民間人校長する機会がありました。日本の大きな課題が教育にあるなと思っていました。そのうち、大きな問題っていうのはやっぱり指示待ちの子供たちを生産してるんじゃないかっていう課題意識があったので、もっと子供たちの主体性、外発性を育むような機会があるといいなと思っていました。ところが、中学校に入ると部活動も結構指示待ちになってるんじゃないかと。本来部活動は子供たちの主体的な活動と明記されているのにもかかわらず、実態としては顧問の先生が指示をしているケースが多いというのが実態だと思います。部活動の地域移行だって、そのまま地域に移行しちゃったら、地域の人たち大変だろうということで、時間かかってもいいので部活動を子供たちの手に戻すっていうことが必要なんじゃないかなと思ってます。

今私がサポートしているのが、佐賀県の佐賀市という自治体なんですけど、2 年前は全く進んでなかったんですが、まずは部活動を改革しましょう、もっと地域にゆだねる良い形にしてからちゃんと出しましょう、いいモデルにしましょうっていうのを佐賀モデルとして、生徒が主体的に行う活動、そして適切な 8 時間にしましょうということを協議会の中で決めました。佐賀モデルを子供たちに聞くわけです。そうすると子供たちは何をやりたいのかっていうのも見えてきます。練習の内容を決めたいっていうのは 9 割近く、こういうこともしっかりと子供たちに委ねていきたいと思いますっていうのが、佐賀モデルです。

2030 年に学びの羅針盤で提示されている、まさにエージェンシー自分たちがよい社会のために確信をもって責任を取るんだ。こういうのは部活動の地域移行で育てるんじゃないかなと。こういうことも 1 つ大きな目標として、部活動改革に取り組むと、子供たち本当にいきいきとするし、さらには未来を切り開いていく力を作れるんじゃないかなというふうに思ってます。

(二宮さん)

ありがとうございます。

地域クラブへの移行っていうものが、単に部活動からの形の変換とかではなく、子供たち主体性の育成と学びっていう部分でどんなことを目指していかなきゃいけないのかっていうことに関して、大きな示唆をいただいたんじゃないかなというふうに思います。

でも、それを成し遂げるためには指導に当たる指導者の考え方、特に勝利を目指すというのはこれまでの部活動の中でかなり大きくテーマとして挙げられてましたし、そのことに関する社会的問題も大きいです。

そのことについて、石川さんに補足していただければなというふうに思います。

(石川さん)

はい、ありがとうございます。

スポーツ庁の検討委員会のときに、室伏長官が日本のスポーツのあるべき姿を見直すときじゃないかともすごく声を大にしておっしゃったのを非常に心に残っています。

子供の声を聞かなきゃいけないってのはすごく大事だと思ってますが、一生懸命大人が考えるスポーツのこれからでも、実際我々部活でしか育てない世代が、しかも小学校中学校でもチャンピオンを決めるスポーツを体験し、そこにマスコミとか成果主義みたいなものがのっかったスポーツの世界しか知らない我々だなあというふうに私も思ってですね、いろいろ調べると、例えばヨーロッパだったらスケートですと、中学校卒業するまで一切記録は公表しない、アメリカでも州を越えた大会はしない、自分自身と向き合うのがスポーツなんだ。この考え方が日本で浸透しないといくら子供のためと言っても結局は、その周りの保護者指導者のそういう思いがすべて駄目にしちゃうんじゃないかと。一方で、そこを理解した方がやると、どんなクラブチームになってもみんなが協力し合っているって一番のターニングポイントになってくるんじゃないかなっていつも思って、実は一番あちこちで訴えさせてもらっています。

(二宮さん)

はいありがとうございます。今の意見を受けて安川先生どうですか。この現場で指導に当たられていて、かつ教育者として考えもあるんじゃないかなと思いますけど。

(安川さん)

胸が痛いんですけど、どうしてもやっぱり限られた時間の中で、選手たちの技術力向上って考えたときに、いかに効率的に練習をしてあげたほうがいいかっていうのがやっぱりあったんですけど、時間かかってもいいから、自分たちで決める機会を与える自分のチームだと新人戦が終わってからそういった機会をどんどん取ってるんですけど、やっぱり子供たちからそういう機会はもう奪ってもいけないかなっていうのはあるので、これからちょっとチームの方針に入れていきたいと思います。

(二宮さん)

ありがとうございます。

先ほど学びの羅針盤で話がありましたけれども、どうもこの部活動の地域移行の話っていうのが形だけの移行のディスカッションというのが全国的に聞くんですけど、その学びの時期とか、

移行することでこういう世界が生まれてくるんじゃないかっていうディスカッションが非常に少ない気がするんですが、その辺に対してどういうご感想、或いはこういう考え方あった方がいいんじゃないかっていう提言があれば、ぜひお聞きしたいです。

(代田さん)

ありがとうございます。

私も室伏長官といろいろ話す中で、部活動の地域移行ってというのは、文化的身体、神楽、太鼓、伝統文化、第一次産業的身体、ここまで含めているんだ、稲刈りとか田植えも地域移行なんだと言ったときに、この人は何を言ってるんだろう。確かに砲丸投げのときにいろんなトレーニングやっていたのは知ってるんですが、第一次産業的身体っていうのが私の中で本当に理解できなかったですが、エンジョイスクエアを始めてなるほどと思いました。今回から農作業のクラブが2つありまして、農家の皆さんが地域移行で、私は体の使い方を教えたいって言って、疲れない田植えの仕方があるんだと言ってたときに、なるほどようやく室伏長官の言っていることが理解できました。この方針のとおり、公平性を重視し、生徒の体験格差をなくすことを提言しているので、改めて見てほしいなと思います。

(二宮さん)

なるほど。そういう古武術的な体の使い方とかまで含まれていると。ただ、私達のところにはわかりやすい情報とわかりやすいものでしか伝わってないかなと。こういったフォーラムで、この地域移行というものがこんなに深いものなのかっていうところも一方で理解していただけるといいかなというふうに思いました。

また、今日のお話の中には先ほど代田さんのお話にもありましたし、それから安川さんの話で地域の応援っていう話が出てきました。やはり地域の方々に応援してもらったり、お金の面まで考えると、地域の企業体とか、こういうところにも応援してもらわないと持続可能な形でなかなかつくれないだろうと。もちろん行政にも理解してもらって、様々な減免措置も必要なんだけども、古典的なやり方だけではなくて、もっともっとみんなが応援してくれる形ってのを指さなきゃいけないのかなというふうに思っております。そういう意味では、石塚さんには民間の立場として、様々な連携の事例とか立て付けにも関わってくださると思いますので、事例も含めてご紹介いただけるとありがたいなというふうに思っております。

(石塚さん)

ありがとうございます。何かもう少し広い枠組みでも考えていくってことも必要だし、地域に特化したことも必要だなと思っていて、ちょうど9月10日に作ったばかりのコンソーシアムがありまして、もしかしたら報道でご覧になられたと思いますが、日本郵政さんと三井住友海上さんと我々スポーツデータバンクがこのブカツ・サポート・コンソーシアムってのを作ったんです。やっぱ地域移行していくために、もちろん人材の確保とか、場所の確保とか、財源の確保とか、いろんなソリューションが必要になってくるって考えたときに、1企業が関わりづらいんであれば、もう少し広い範囲で関われる企業さんとかを連携するような組織体を作っていけばいいんじゃないかってことで、実は4日前に作りました。このブカツ・サポート・コンソー

シラム、通称ブカサポと呼んでるんですけど、3社で理事会を作って運営事業やっています。ポイントは2つです。自治体の支援ってのをやってるんです。自治体さんがまず何かからやったらいいのかとか、いろんな支援の方向性を考えたときに、こういう支援のあり方がありますよっていう紹介をしていくっていう1つポイントです。

2つ目のポイントが、コンソーシアムって名前のとおり、この会員っていう民間企業とか、あとは団体、大学研究機関、こういった地域移行をしていく上で必要な解決策を様々持ってる方たち、そういう皆さんがコンソーシアムに集まって、実際の支援をしていくといいんじゃないかっていうことを、まさしく立ち上げました。どこにどういふうに関わればいいのかみたいな意外とマッチしてないこともあるんで、中間支援組織になればいいなと思って作りました。

第1弾は、沖縄県の教育委員会と包括連携の2日前に結んだ記事もありますんで、ぜひ皆さんもこのブカツ・サポート・コンソーシアムと調べて、地域の皆さんが何かできることないかなっていう考えるきっかけになればいいかなと思います。

(二宮さん)

ありがとうございます。すごく単純な質問なんですけれど、これってやや感度のいい人だから集まれるんですかね。それともみんなにチャンスはあるんですかね。

(石塚さん)

まさしく後者を目指していて、それも地域移行の課題ってこうですってことをもう少し詳しく説明していく必要があるのかな。そもそも地域移行って何で必要なのかという話があったりすると思うんで、今の現状を理解して、その課題感というものを共有していくと、あそこだったらうちの企業でもできるかなとか、大学としてはそこ支援できるよみたいな感じで、課題の解像度を上げていくことが必要かなと思います。

(二宮さん)

なるほど、ありがとうございます。さあ、だんだんクロージングの時間が近づいて参りまして、会場の皆様もぜひ聞いてみたいっていう方がいらっしゃるんじゃないかなと思います。挙手をしていただけますと、司会の方がマイクを持っていきます。いかがですか。

(質問者1)

教員もやっていて、地域のクラブで指導者もやっています。そこで思ってることなんですけど、学校と地域でも常に何か繋がりが必要なんじゃないかって思うのですが。何かいい案はありますか？

(安川さん)

飯山シニアさんの取り組みで、飯山シニアさんは年に1回か2回学校訪問をしています。うちのチームに所属してる子供たちが学校生活どうですかっていうのを地域の方が校長と面談して、生徒の様子を聞いているような状態になっています。

軟式のチームは所属してる学校の先生がチームスタッフの中に1人ずつ入っていて、地域の指導

者と子供たちのトラブルも含めた、そういったケアができるっていうところで今スタートしてるんですけど、今後それが維持できるかどうかは模索中です。

(質問者1)

その中で、今3つの学校の先生・生徒同士で活動してまして、そのあたりの連絡・調整はどうしていますか？

(安川さん)

グループLINEを作って、グループ内で共有してます。物理的にわからないものはわからないんですよね。だから、教えてもらわないとわからないんですよ。やっぱり教えてもらうっていう関係性がなくなると、学校の先生と地域のコーチ同士でフランクに関係性が築けるようにして、そういった問題を解決しようとしています。

(質問者2)

中学校の教員なんですけど、自分の学校全く進んでないです。このスピード感が疑問に思っていて、もうちょっと早くこの地域移行を進める手段とかないのかなと思うんですけどいかがですか？

(石川さん)

責任は持てないんですけども、国が8月末から新たな会議をスタートさせました。今までは、スポーツと文化バラバラにやっていたものをまとめてちゃんと移行させるための会議体をスタートさせて、令和8年度以降、国が何を支援するかとか、今のガイドラインをどう見直せばいいとか、学習指導要領の中でどうするかっていう具体的な話し合いがスタートし、今年度中にまとめるんですよね。そこでどういう話の結論が出るかっていうのが、1つ次のステップに向けて動き出してくるんじゃないかなと思います。

(質問者3)

先ほどのブカサポの3社の位置付けはビジネススポーツとしての見方をしたのか、または半分で残りは地域活性化だとすれば、一番のその地域に根差した企業とタイアップされるのが、望ましいのではないかと疑問としてあります。

(石塚さん)

そうですね。これがダイレクトでスポーツビジネスなのかっていう問いに対しては、やっぱりまだまだ分からないし、多分その手前の部分で作り上げなきゃいけないことがたくさんあるなと思ってんですよ。教育と連動する部活動をどうやって社会スポーツとか地域クラブへ変えていくんだって言ったときに、すぐに変えるのは難しいと思うんで、できることが何なのかって考え、やっぱり課題の整理だと思うんですよ。その課題の一部であれば、どんな企業さんでも取り組めると思うんですよ。ただ、例えば管理システムで出欠の管理を一元化するとか、学校との連絡システムだとか、そういう部分って同じ仕組みだったり、似たような仕組みを展

開することで全都道府県の課題解決ができるかもしれない。課題の解像度をあげるという意味で3社で作りました。地場の企業さんが関わっていくことは非常に大きいことかなと思いますし、地域のあるべき姿が新しいスポーツの形を作り上げ、地域にとってもいいと思いますし、それがスポーツだけじゃなくて文化に影響してくると、2つの環境が地域を活性化していくんじゃないかなと思っています。

(二宮さん)

ありがとうございました。いよいよ時間になりましたので、これで終わらなければなりません。スポーツ・文化活動っていうのは、我々人間が生きていく上でも欠かせないアイテムです。明日を楽しく生きるため、今日を楽しく生きるために、スポーツや文化活動っていうのはすごく必要なものです。そして、中学生はそういうものに最初に真剣に取り組んだり、出会ったりする貴重な時間でもあります。これを、地域の中でどのように整理整頓して、彼らに良い体験をさせてあげる環境を作っていくのかが、大人の責任ではないかなと考えます。今日お集まりのパネリストの皆さんは、それを実践的に取り組んだり、苦労して、でもそれを皆さんにお伝えして、この埼玉の中にも良い組織を作っていきたいという思いで、今日参加しております。

ぜひ、そのことをお感じになっていただいて、それぞれの地域の中でコミュニケーションを取っていただければ、今日の成果になると思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

(司会)

二宮コーディネーター、パネリストの皆様ありがとうございました。

以上でシンポジウムを終了いたします。